

ODIP 4.2 修正パッチ (P1040201005138) リリースノート

2022/06/01

(株) インテリジェント・モデル

ODIP は、(株) インテリジェント・モデル社の登録商標です。

本書に掲載された情報に基づいた行為の結果として発生した損害、利益の損失、経費などについて、(株) インテリジェント・モデルならびに本書の製作関係者は一切の責任を負いません。

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で転載・複製することは法律で定められた場合を除き、禁止されています。

目 次

A. 変更内容	4
1. Apache Log4j の脆弱性 (CVE-2021-44228) 対策	4
2. その他修正	4
B. バージョンアップによる影響	5
C. パッチの適用方法.....	5
1. ライブラリファイルの更新	5
2. パッチ適用後の確認.....	6

A. 変更内容

1. Apache Log4j の脆弱性 (CVE-2021-44228) 対策

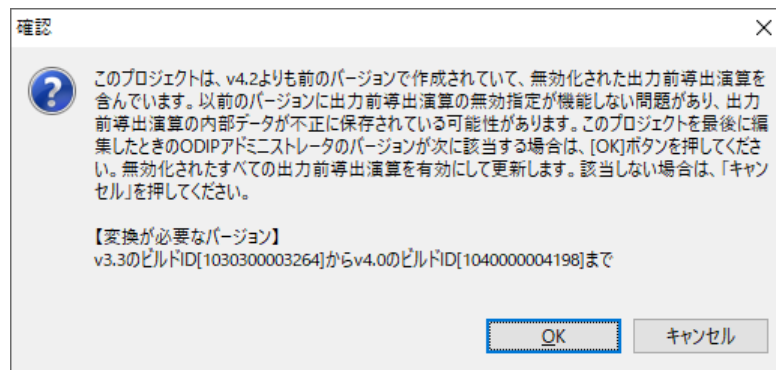
Java ベースのロギングライブラリである Apache Log4j のバージョン 2 系において、遠隔から任意のコードが実行可能となる深刻な脆弱性 (CVE-2021-44228) が発見されたことを受け、v4.1 以降の ODIP 製品で使用されてきた Apache Log4j 2.11.2 を、本脆弱性の対策版である Apache Log4j 2.16.0 にアップデートしました。

2. その他修正

- (1) CSV ファイルのデータソース情報ダイアログで、区切り文字に「カンマ」または「タブ」、文字列の引用符に「なし」を同時に選択できるようになりました。
- (2) データソース情報ウィンドウで CSV ファイルの文字列の引用符に「なし」が選択されているとき、コピー&ペーストを行うと文字列の引用符が「ダブルクォーテーション」に変更される問題が修正されました。
- (3) 一時テーブルのデータソース (-tempds) が指定されていないとき、データソース名、テーブル/ファイル名に「,().+*/<>=:;"」のいずれかの文字が使用されていると、ファイル結合の処理が異常終了する問題が修正されました。
- (4) ODIP アドミニストレータの「データベースツール」 > 「データエクスポート」を Teradata のテーブルに対して実行するとき、SELECT 文のカラム名はダブルクォーテーションで囲まれていましたが、処理の入力時と同じように、カラム名はダブルクォーテーションで囲まないように変更されました。
- (5) v3.3 から v4.0 までの一部のリリースで、定義上は「無効」に指定された出力前導出演算が処理上は「有効」に動作する問題がありました。この問題は v4.2 までに修正されましたが、修正前に保存されたプロジェクトファイルを修正後のバージョンで実行すると、「無効」に指定された出力前導出演算が処理上も「無効」として扱われるため、処理結果が変わる可能性があります。今回の修正パッチでは、このような意図せず「無効」に指定された出力前導出演算を検知して自動的に「有効」に変換する機能が追加されました。

B. バージョンアップによる影響

v4.2 よりも前のバージョンで保存された、「無効」に指定された出力前導出演算を含むプロジェクトファイルを ODIP アドミニストレータで開くと、次のダイアログが表示されます。v4.2 以降のバージョンへ移行する場合は、保存されたバージョンやプロジェクトファイルに応じて変換の必要性を調査しますので、事前に弊社までお問い合わせください。



C. パッチの適用方法

本パッチは、次の ODIP 製品に適用してください。

- ☐ ODIP アドミニストレータ v4.2
- ☐ ODIP オペレーションマネージャ v4.2
- ☐ ODIP リポジトリマネージャ v4.2
- ☐ ODIP プロセスマネージャ v4.2
- ☐ ODIP リポジトリサーバ v4.2
- ☐ ODIP トランスフォーマ v4.2

1. ライブラリファイルの更新

ODIP_P1040201005138 フォルダには、表 1 の製品ごとのフォルダにライブラリファイルが含まれます。実行中の ODIP 製品を終了し、製品ごとのフォルダに含まれるすべてのファイルを、表 1 のファイルのコピー先に上書きコピーしてください。

表 1 ODIP_P1040201005138 のフォルダ構成及びファイルのコピー先

ODIP_P1040201005138		ファイルのコピー先
lib	ADM	ODIP アドミニストレータの lib フォルダ
	OPE	ODIP オペレーションマネージャの lib フォルダ
	RPM	ODIP リポジトリマネージャの lib フォルダ
	RPS	ODIP リポジトリサーバの lib フォルダ
	TFM	ODIP トランスフォーマの lib フォルダ

2. パッチ適用後の確認

パッチ適用後は、各製品を起動し、表 2 の確認方法に従って確認を行ってください。

表 2 パッチ適用後の確認方法

製品名	確認方法
ODIP アドミニストレータ	ヘルプメニューから“ODIP について”を選択し、表示されたすべてのビルド ID が 1040201005138 であることを確認してください。
ODIP オペレーションマネージャ	
ODIP リポジトリマネージャ	
ODIP プロセスマネージャ	
ODIP リポジトリサーバ	ODIP リポジトリマネージャのツールメニューから"ORMS サーバ情報"を選択し、表示されたすべてのビルド ID が 1040201005138 であることを確認してください。
ODIP トランスフォーマ	ODIP トランスフォーマを起動し、showserver コマンドを、オプションに“-info version”を指定して実行してください。表示されたすべてのビルド ID が 1040201005138 であることを確認してください。

以 上